

第4回 下丸子駅周辺地区の まちの将来を考える会(勉強会)

モノづくりのまちの
交流拠点

イマドキ風に
増築しました

2階でカフェを
はじめました

新ものづくり
創出オフィス

軒先ライブ!

他業種との
シェア工場町家

町工場をまちに
ひらいてみたり…

下丸子のえきまち空間を考える

-東急多摩川線立体化後の 駅と駅前・駅周辺-

放課後は
工場集合!

デザイン
×
町工場

モノづくりのまちの
直売所

2022.05.30 (月)

野原 卓

横浜国立大学大学院 都市イノベーション研究院 准教授
(一社)おおたクリエイティブタウンセンター(OCTC) センター長
大田区景観審議会会長,大田区都市計画に関する基本的な方針等改定推進委員会委員

えきまち空間

「駅まち空間」の一体化

駅まちデザインの手引き

つながる駅とまち
～駅とまちの上手なつきあい方～



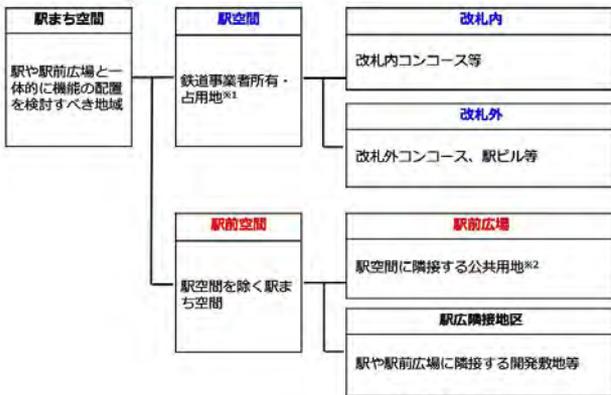
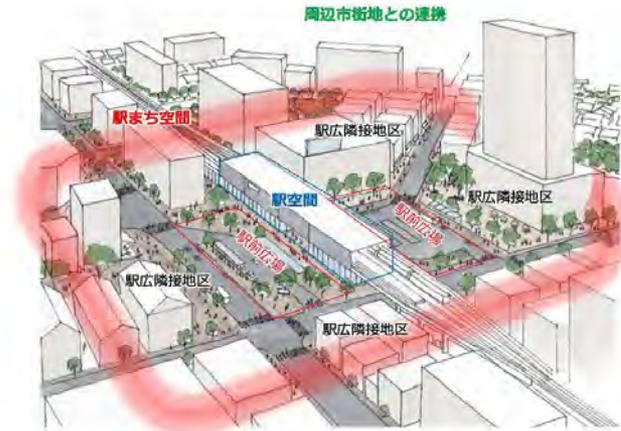
駅とその周辺を、単なる交通結節点としてだけでなく、重要な「都市の資源」（都市アセット）としてとらえて、その駅の周辺の「まち」と一体で考え、駅前空間の価値を最大化するためのあり方。

国土交通省駅まちデザイン検討会
(2021.09)

『駅まちデザインの手引き』

「駅まち空間」の一体化

駅を重要な都市資源（都市アセット）ととらえながら、周辺のまちと一体で考えて、駅前空間の価値を最大化するためのあり方。



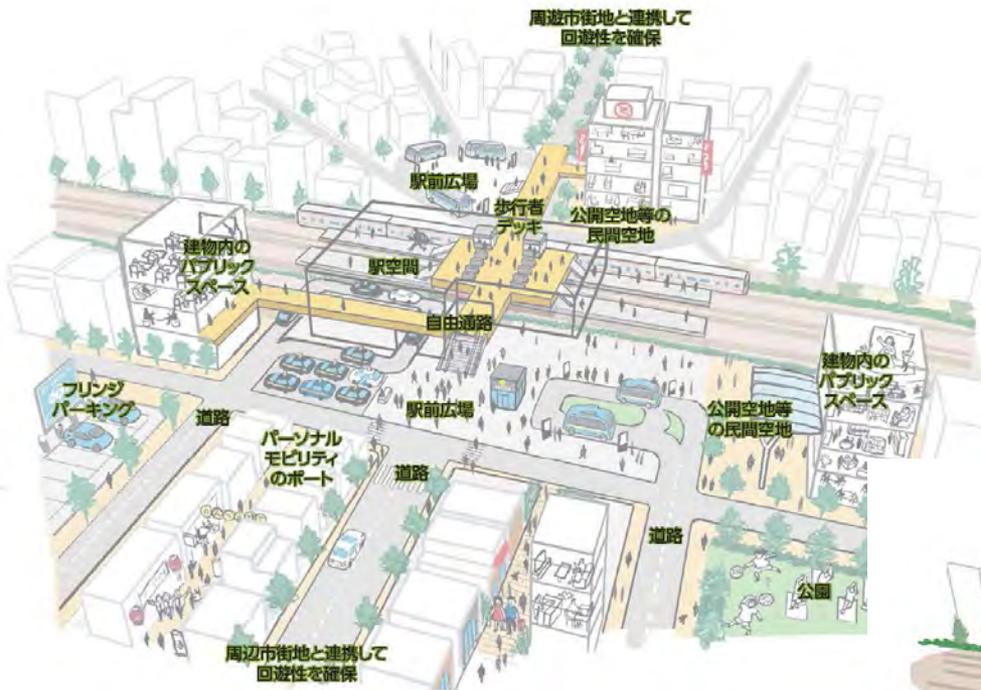
※1 指定駅前広場は除く
 ※2 指定駅前広場内の鉄道事業者所有・占用地を含む

図1-1 本手引きで対象とする「駅まち空間」の範囲



図1-2 求められる駅まち空間のイメージ

「駅まち空間」の一体化



「駅まち空間」の一体化

5

駅とまちが上手につきあっていくための
駅まちデザインの5原則

駅とまちが上手につきあっていくために特に重要なポイントを駅
まちデザインの5原則として紹介します。



原則

01

多様な主体の連携

地方公共団体・交通事業者・開発事業者等の多様な主体が連携して、ビジョンを描き・計画を策定し・整備を進め維持管理を行っていくことが必要です。



原則

02

ビジョンの共有

駅まちデザインを進めるにあたって課題やビジョン（まちの理想像）、具体的な方策などについて、常に多様な関係者とイメージを共有しながら進めることが重要です。

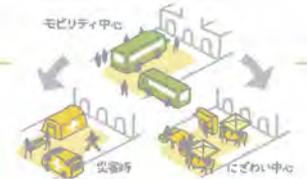


原則

03

空間の共有

駅まち空間において、必要な機能を確保するためには、「空間の共有」を考慮することが重要です。



原則

04

機能の連携

駅まち空間を最大限に活用するためには、「機能の連携」を考慮することが重要です。



原則

05

一体的で柔軟な運営

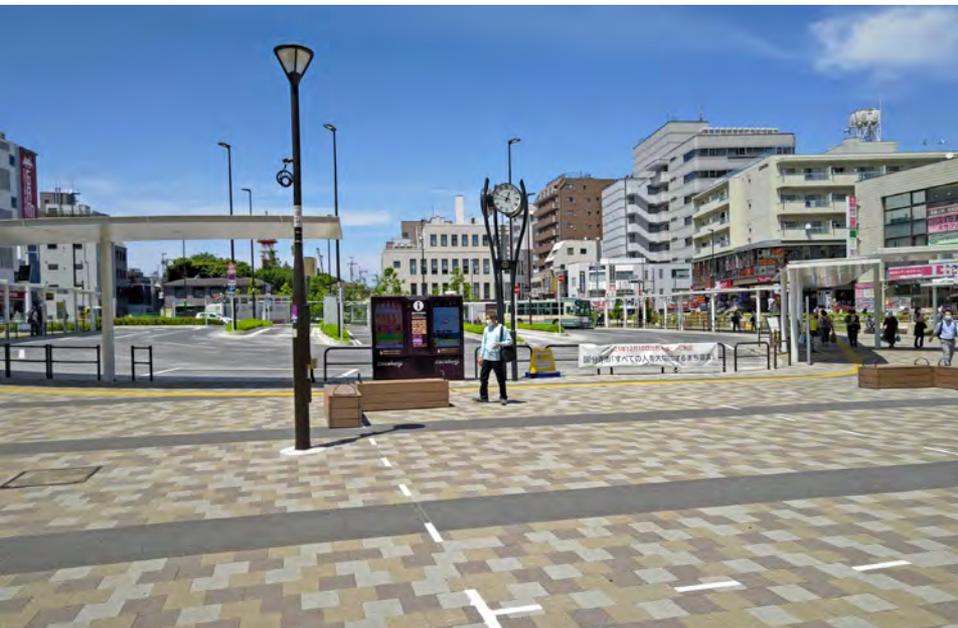
駅まち空間では、ユーザーの目線に立ち、管理区分を超えた一体的な管理・運営を行うことや、可変的・多目的な活用を行うことが重要です。



【事例】国分寺駅北口広場

交通とにぎわいと施設が連続している。

国分寺駅改札から隣接する駅前施設（商業等）を抜けて広場、そして交通広場がつながる。

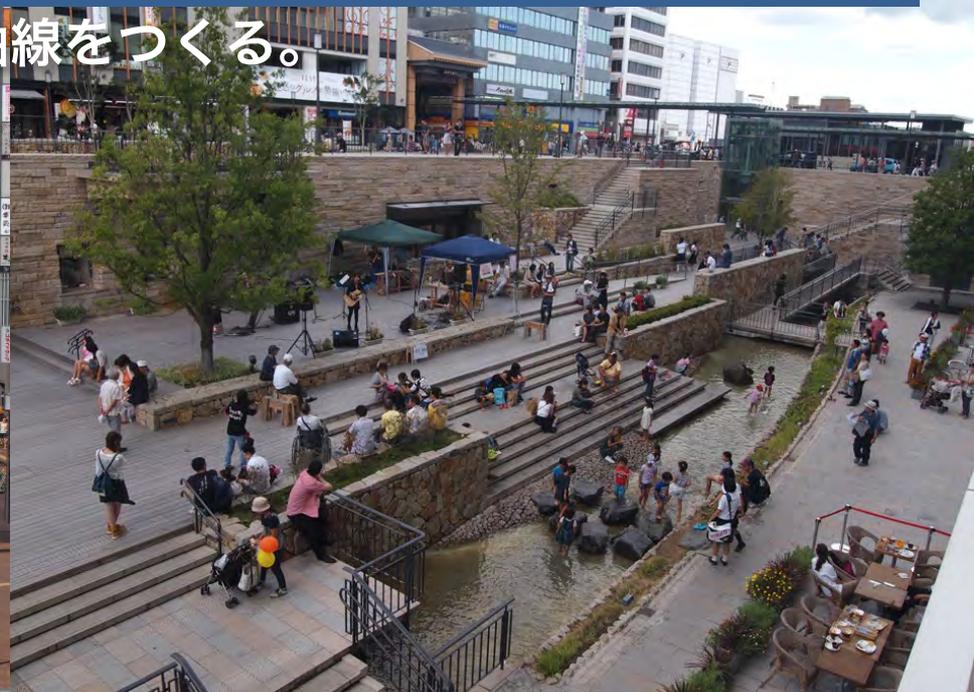


【事例】姫路駅前広場



歩行者優先とシンボル性のある駅前

駅前を歩行者の広場にする / 都市の軸線をつくる。



【事例】姫路駅前広場



多世代を柔らかく受け止める駅前空間

芝生・サンクンガーデン・滝と池・階段・立体



【事例】日向市駅前広場（宮崎県日向市）



駅前に大きなひろばを創る。

事業（立体交差と土地区画整理）を重ねて、駅前に広場を創り、市街地と連携している。



【事例】虎溪用水広場（多治見駅前広場）

駅前に憩いの場を生み出す

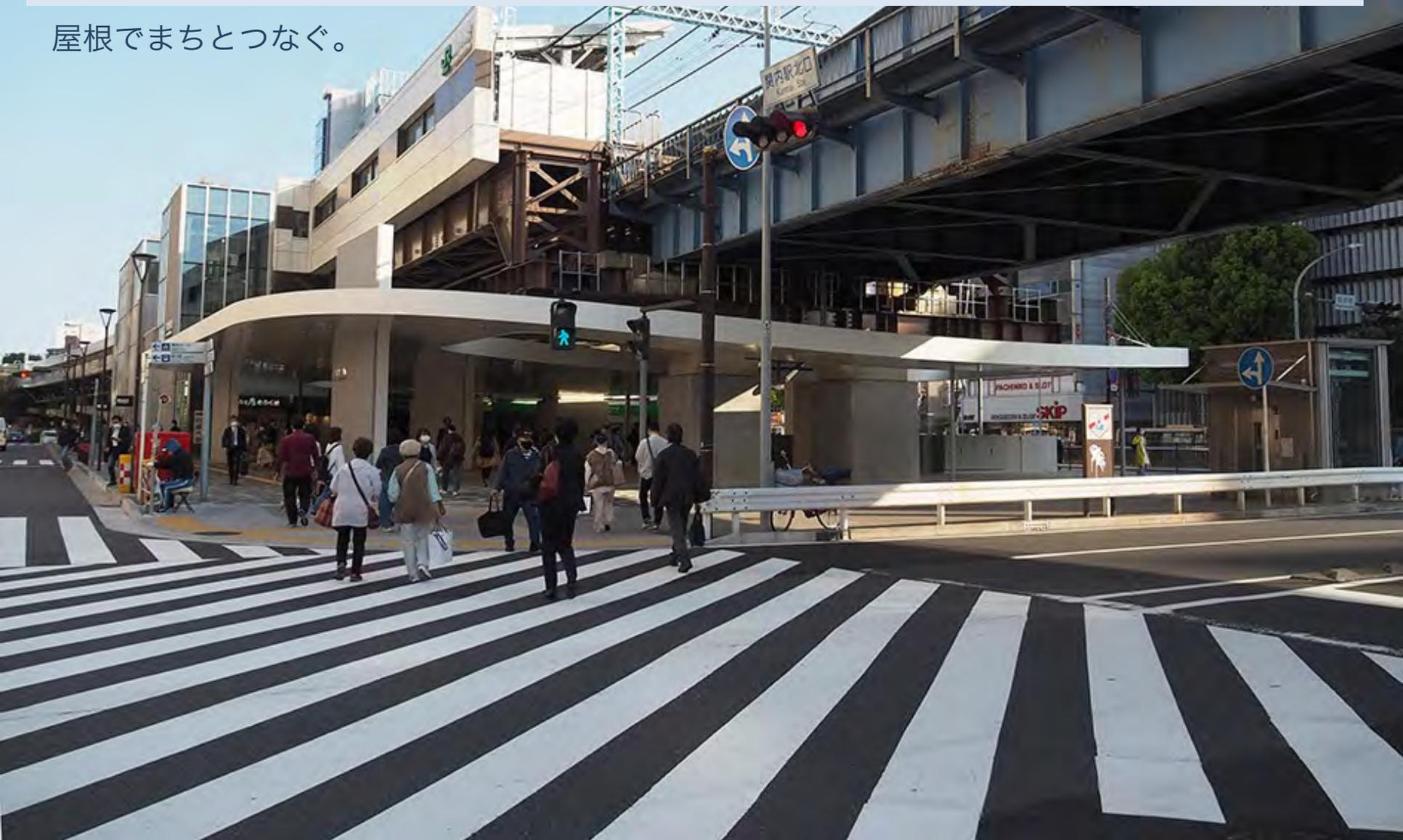
駅前に大胆に水辺の広場を設ける／有料貸出空間を作り出す。



【事例】 関内駅北口改札前広場

軽やかな屋根がまちと接続する。

屋根でまちとつなぐ。



【事例】 Homme de Fer 駅(ストラスブールのLRT駅)

気軽に待てる、佇める駅前。

駅の目の前にレストラン・カフェがある。



【事例】日立駅の再生（茨城県日立市）



「海」を浮かび上がらせる「箱」の駅



【事例】池上線五反田高架下

高架下に「まち」を創る。

高架下の活用として、サイクルショップ・ランドリーカフェ・カフェレストラン・横丁が絡み合う。路地的な空間の挿入。



【事例】池上線五反田高架下

高架下に「まち」を創る。

高架下の活用として、サイクルショップ・ランドリーカフェ・カフェレストラン・横丁が絡み合う。路地的な空間の挿入。

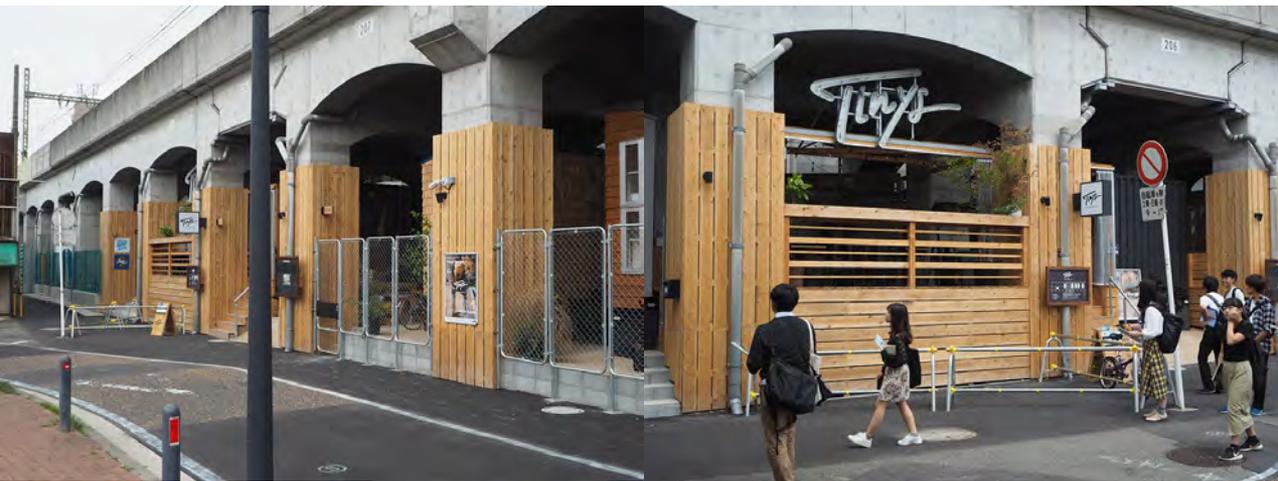


【事例】黄金町～日ノ出町（横浜市：京急線）

高架下にまちを生み出す。

Tinys Yokohama Hinodecho

トレーラーハウスの宿泊施設とスタジオによる「文化芸術」化



【事例】黄金町～日ノ出町（横浜市：京急線）

高架下にまちを生み出す。

トレーラーハウスの宿泊施設とスタジオによる文化芸術化



【事例】ミカン下北（世田谷区：下北沢駅）

高架下にまちを生み出す。

トレーラーハウスの宿泊施設とスタジオによる文化芸術化



【事例】相鉄線星川～天王町高架下案 高架下に「みち」を創る。

高架下空間を、まわりのまちとまちをつなぐ「みち」として考える。



図版出典：相鉄グループホームページのプレスリリース(2021.10)

【事例】梅森プラットフォーム（梅屋敷駅）

クリエイティブなモノづくりをまちに持ち込む。

京急線梅屋敷～大森町（梅森プラットフォーム）にある創造的コワーキング・スタジオ拠点。
京急と「@カマタ」チームにより運営（2019.04～）。町工場職人とも連携。



【事例】富山駅前広場（富山駅：富山市）

スムーズな交通結節点をつくる。

コンテナドック生を利用して、「日常」を生み出す。



【事例】サーキュラーキー駅（シドニー）

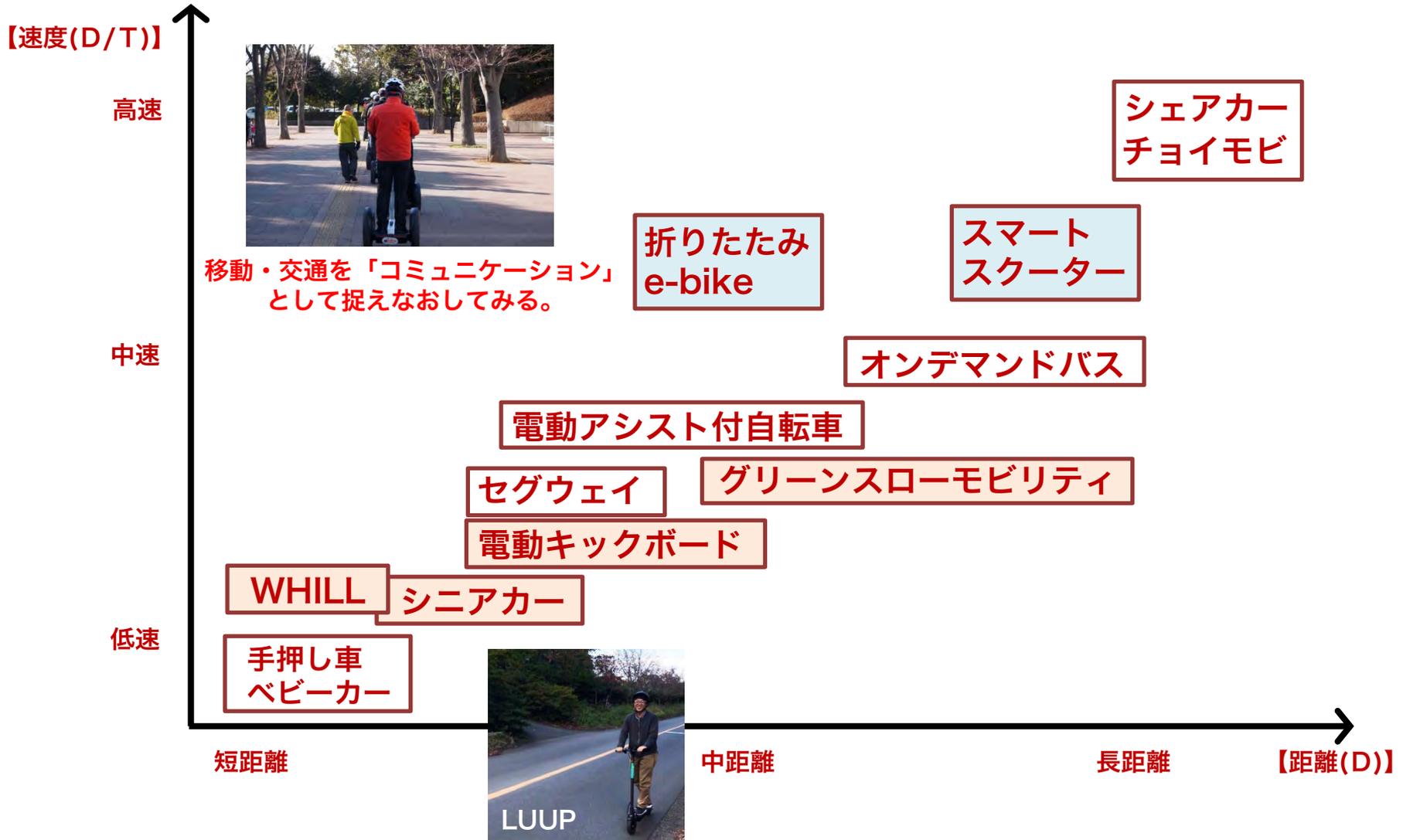
スムーズな交通結節点をつくる。

鉄道からすぐ船にそのまま乗ることができる。



「遅い交通・小さい交通」を活かす

「速い交通」のためにつくられた空間を、いかに、「遅い交通」のための空間に変換することができるか？



近年盛んなスローモビリティ社会実験

駅まち空間を豊かにするポイント

① 駅・高架下（地上）・まちを溶け込ませる

⇒境界線はあいまいにする工夫。

⇒沿道の建物やまちも一緒に考える必要がある。

② まちの内外を接続する

⇒地域の特徴を重ね合わせる（まちの「おへそ」となる）

⇒地域外のパワーを引き寄せる（受け入れる）

③ 「つかう人」「つかう仕組み」をはぐくむ。

⇒つくる前から、つかう人を探し、育み、意見を聴く

⇒えきまちへの愛着と関わり場の場（組織）を育ててゆく。